

ネギのハウス栽培による初夏どり技術

黒田 吉則・舟越 利弘・横川 庄栄*

(山形県立園芸試験場・*山形県農業経済課)

Growing Techniques of Welsh onion Harvested Early Summer in Prastic Greenhouse

Yoshinori KURODA, Toshihiro FUNAKOSHI and Shouei YOKOKAWA *

(Yamagata Prefectural Horticultural Experiment Station・*Agricultural Economic Section of Yamagata Prefectural Government Office)

1 はじめに

山形県におけるネギの栽培面積は473ha (1990年)であるが、秋冬ネギが大部分であり、出荷期の拡大が求められている。また、営農規模拡大と転換畑の利用作物としてもネギは好適な作物である。

これまで、ハウスを利用した春まき育苗による8月どりや、露地の秋まき翌春定植による7月どりの作型を確立したが、さらに、6月どりのためのハウスを利用した栽培方法について検討した。

2 試験方法

(1) 試験区

- 1) は種日 1988年：9月30日, 10月15日, 10月31日
11月16日
1989年：10月13日, 10月30日

- 2) 供試品種 吉蔵 (武蔵野), 長悦 (協和)

(2) 栽培概要

- 1) 定植 1988年：3月13日 1989年：3月14日
- 2) 栽植距離 苗床：ベット幅1m, 10cm間隔に条は本畑：うね幅 135cm, 株間 3cm
- 3) 花球摘みとり 4月11日 (1988年) 及び4月16日 (1989年) よりほぼ10日ごとに摘除。
- 4) 保温 1988年：10月31日から1月31日まで苗床にトンネル被覆。1989年は10月30日から2月8日まで。

3 試験結果及び考察

(1) 生育 は種日が遅いほど苗の生育は劣り、特に、11月16日の種では3月中旬での定植は困難であった。年次間の比較では、1989年が暖冬であり、生育が優った。

品種間では、長悦は草丈が長く、葉数、茎径、苗重では1988年は吉蔵、1989年は長悦が優った (表1)。

(2) 抽台 抽台は4月中旬より始まった。抽台率はは種期が早いほど高かった。吉蔵の10月13日は種では、6月上旬に抽台率が100%に達し、その後、収穫までに約20%の2次抽台が発生した。定植時の茎径では7mm以上の苗は全て抽台し、9mm以上の苗では収穫時まで20%以上の苗で2次抽台した。10月30日は種では抽台率が100%に達しなかったが、収穫時まで抽台は続いた。茎径では9mm以上の

表1 は種期、品種と苗の生育

は種期	品種	3月13日 (定植時)			
		葉数 (枚)	草丈 (cm)	茎径 (mm)	苗重 (g)
1988	9/30	2.6	59.9	10.3	25.8
	10/15	2.7	49.8	8.1	14.4
	10/31	2.5	38.0	6.3	6.2
	11/16	1.8	21.2	4.4	1.9
1988	9/30	2.5	69.6	9.4	21.6
	10/15	2.7	54.2	7.4	12.1
	10/31	2.4	41.9	6.0	6.0
	11/16	1.7	24.5	4.5	2.1
1989	10/13	3.1	63.1	8.9	20.4
	10/30	3.2	56.5	7.0	10.8
1989	10/13	3.5	70.5	9.2	25.7
	10/30	3.3	63.9	8.3	17.8

苗で100%抽台し、10mm以上の苗では2次抽台した。同じ茎径の苗でもは種期の早い方で抽台が多かった。これは低温遭遇時間の差と考えられる。

一方、長悦は抽台が極めて少なく、5月17日以降は新たな抽台が発生しなかった。また、は種期では10月13日でやや多い傾向はあるが、吉蔵のような差は見られなかった。茎径でも12mm以上の苗で抽台率がやや高かった他は差がなかった (表2, 表3)。

(3) 収量 1989年では両品種、両は種期とも6月中旬には収穫が可能であった。収量はは種期では10月13日が多かった。これは、吉蔵では10月13日は種での抽台が早かったことから、6月18日の収穫時には、側茎が伸長し収穫できる大きさに達したものが多く、抽台くずが少なかったのに対し、10月30日は種では抽台くずが21.7%と多かったため

表2 は種期、品種と抽台率 (累計%)

は種期	品種	抽台率	は種期	品種	抽台率
1988	9/30	106	1989	10/13	121
	10/15	68		10/30	88
	10/31	15	1989	10/13	8
9/30	15	10/30		7	
10/15	8				
10/31	0				

表3 は種期、品種、茎径と抽台率

は種期	品種	定植時 茎径 (mm)	抽台率 (%)	は種期	品種	定植時 茎径 (mm)	抽台率 (%)
1989 10/13	吉蔵	7	108	1989 10/30	吉蔵	5	39
		8	112			6	72
		9	124			7	96
		10	126			8	96
		11	154			9	100
		12	133			10	110
は種期	品種	定植時 茎径 (mm)	抽台率 (%)	は種期	品種	定植時 茎径 (mm)	抽台率 (%)
1989 10/13	長悦	7	10	1989 10/30	長悦	5	14
		8	4			6	10
		9	6			7	2
		10	10			8	12
		11	8			9	6
		12	23			10	10

表4 は種期、品種と収量、品質 (1989年)

は種期	品種	収穫日	白根長 (cm)	調整重 (g)	抽台率 (%)	1a当 り換 算A 級収 量 (kg)	同左 B級 収量 (kg)
10/13	吉蔵	6/18	30	112	6.7	239	19
		6/28	33	132	6.9	244	59
10/30	吉蔵	6/18	28	101	21.7	183	12
		6/28	34	133	13.3	252	29
10/13	長悦	6/18	31	127	0	314	0
		6/28	34	133	1.1	325	0
10/30	長悦	6/18	32	113	3.3	265	0
		6/28	31	127	6.7	289	0

4 まとめ

ハウス栽培による6月どりネギの品種とは種期について検討した。

(1) 品種 本作型では抽台が問題となる。抽台した株は側茎の伸長したものを収穫することになるため、収穫時期が遅れる。さらに、側茎が再び抽台(2次抽台)すれば、収穫時期はもっと遅れる。

長悦は抽台が極めて少ないことから、収穫時期が早まり、6月中旬には10a当たり約3tの収量が得られた。また、長悦は品質も優れることから本作型の適応品種と考えられる。

(2) は種期 無加温ハウス内の育苗では、は種期が早いほど生育は進むが抽台が多くなる。しかし、抽台の少ない長悦を用いれば、早い種期ほど収量は増加する。

一方、あまり早い時期のは種では夏秋作の作付けに影響がある。収量性とハウスの効率的利用からして、は種適期は10月中旬である。

ある。

しかし、6月28日収穫では10月13日は種で2次抽台による抽台くずが増加したため、は種期による収量差は少なくなった。

一方、長悦では抽台による影響は少なく、早い種期ほど生育が進み多収となった(表4)。

収量の品種間差では長悦が優った。

(4) 品質 長悦は吉蔵に比較して、白根長が長く、茎が硬かった。また、観察では葉は立性で色が濃く、葉鞘基部のしまりが良く、分けつが少ない特性が見られた。